

# 神戸市が実態調査を実施 ごみ10%削減へ一歩

市民700世帯が  
食品ロスダイアリーを試す

700世帯の市民モニターが4週間にわたって記録した。

ごみ排出量10%削減を目指す神戸市では、食べ残しや手付かず食品が廃棄される「食品ロス」の削減に向け、一昨年の11～12月と昨年の6～7月の2回、「食品ロス実態調査」を実施し、今年4月に分析結果を発表した。国で実施された実態調査よりも一歩踏み込んだ内容になっており、廃棄の多い食品の種類や廃棄理由、家族構成などを細かく分析して有効な対策につなげる狙い。調査は日記形式で、廃棄のたびに種類、量、廃棄理由、保存形式などを記録する「食品ロスダイアリー」を作成。合計約

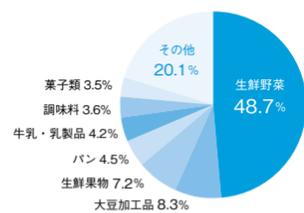
「思ったより捨てていた」  
調査中に得られた気づき

調査結果によると、廃棄された手付かず食品のうち最も多かったのは生鮮野菜だった。廃棄理由は「品質劣化」や「期限切れ」が多く、「家にあるものをうっかり買ってしまう」「閉店前の値引き商品をよく買う」という消費行動が影響していることが分かった。世帯別に見ると、18歳未満の子どもがいる世帯と単身高齢者世帯で食べ残しによる廃棄が多い。また、事前アンケートで

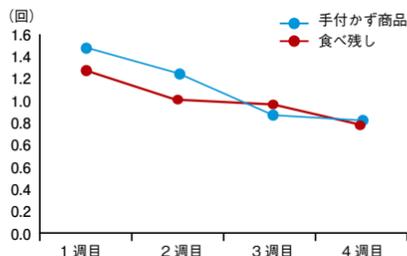
は食品ロスが「全くない」「ほとんどない」と回答した世帯でも期間中3～4回食品を捨てていた。参加者は「思ったより捨てていた」「同じようなものを捨てていることが分かった」と自覚でき、週を追うごとに食品ロスの発生量が減っていったという。その結果、ダイアリーをつけること自体が意識の向上につながる事が分かった。

神戸市では今後、より簡易的な食品ダイアリーの様子をHPで公開し、ダウンロードして使えるようにする。また、家庭で余っている食品を寄付するフードドライブの実施や学校、地域福祉と連携して子どもや高齢者向けに食育を行い、食品ロス削減を目指していく。

廃棄された手付かず食品の種類



手付かず食品・食べ残しの発生回数推移



いずれも2017年夏季調査、神戸市提供資料をもとに作成。

## 阪神高速を一旦降りて休憩できる 「路外パーキングサービス」を豊中南で実施中

阪神高速11号池田線、豊中南出入口近くにある「ロイヤルホームセンター豊中」が5月から路外パーキングサービス(以降、路外PA)対象施設として利用できるようになった。対象となるのはETC搭載の普通車、軽・二輪。豊中南出口から一旦高速を降りて同店を利用し、1時間以内に豊中南入口から高速道路に戻れば、高速道路を一旦降りない場合と同じ通行料で利用できる。利用時間は6時半から20時まで。

阪神高速11号池田線は、大阪市から池田市に伸びる全長約20kmの路線。名神高速や中国自動車道とのアクセスに便利で利用車が多いが、PAなどの休憩施設がなかったため、設置を望む声があがっていた。しかし、都市高速道路の立地条件から、新たにPAを設けることは容易ではないため、今回沿道施設と協力し、豊中南で路外PAを開始した。同店は多くの車が駐車でき、トイレや自動販売機などがある。5号湾岸線の尼崎末広出入口近くでも同様のサービスが提供されており、今後は本線に案内標識を設けて対象出入口を分かりやすく知らせるなど広報強化を進める。路外PAは来年3月末までの社会実験として実施している。



5月から路外PAの対象施設として利用可能になった「ロイヤルホームセンター豊中」。

## 神戸市 11月にもこうべ花時計を撤去、移設を検討

神戸市営地下鉄の駅名にもなり、時節に合わせた様々なデザインで市民を和ませてきた神戸市役所の花時計が今年11月を予定に撤去し、移設を検討することになった。花時計は現在、市役所2号館の北隣にあるが、来年度以降2号館、3号館とも建て直すため、花時計の場所に3号館の空調設備を設置する。

であったため、市職員はスイスのジュネーブまで視察に行き構造などを学んだ。そして昭和32年、現在の花時計が設置された。

市の担当者は「花時計は市民にとって思い出深いモニュメント。移設先を前向きに検討している」と話す。



神戸まつりをデザインした花時計。2018年5月現在。

花時計は昭和20年代後半に、戦災復興の象徴として街を明るくするモニュメントを作ろうと当時の市長が発案。趣旨に賛同した市民や新聞社が、寄付やバザーなどのキャンペーン収益で総額約100万円を集め設置した。日本初の花時計

## 神戸市 ラグビーワールドカップ2019™ 公認チームキャンプ地に内定

ラグビーのナショナルチーム世界一を決定する「ラグビーワールドカップ」。次回、2019年の大会は9月20日から11月2日までの約7週間、全国12会場で48試合が開催され、神戸市で4試合が行われる。



4試合が行われるノエピアスタジアム神戸。

神戸市は公認チームキャンプ地に内定し、ラグビー発祥国であるイングランド

や大会優勝経験がある南アフリカを含む5チームが滞在する。開幕500日前にあたる5月8日には、JR元町駅東口南側広場にカウントダウンボードを設置するなど、開催を盛り上げている。

## あしやを歩く本 「芦屋」5月28日(月)発売

芦屋市は、「街歩き」をテーマとした書籍を全国の書店で5月28日に発売する。同市は、2017年度より移住定住への関心を高めることを目的に、シティプロモーションを展開しており、今回の書籍制作・発売はその一環。市内の隠れた名店や話題のスイーツ、建築や歴史などをテーマに、200以上のスポットを



カフェや雑貨店などのショップ情報のほか、芦屋ゆかりの人物に迫ったインタビュー記事も掲載。A5版140ページ、741円(税別)

掲載している。市の担当者は、「市内内外の多くの方に隔々まで読んでいただきたい。書籍の情報をもとに芦屋を歩いて、さまざまな芦屋を知って欲しい」と話す。

## 地域の絆で安全安心なまちづくり ～犯罪の起きにくい社会づくりのために～

協力:兵庫県警察



### 【地域のネットワークを活用しよう】

犯罪の起きにくい社会づくりのために、警察では各種情報を発信しているが、これらの情報は、必要な人に必要な情報が確実に行き届くことが大切。会合や広報紙、回覧板、口コミなどあらゆるネットワークを活用し、防犯情報を地域で共有しよう。

例えば、●防犯パトロールやあいさつ運動

- 夜間、門灯を点灯して街を明るくする「夜間の門灯点灯運動」
- 登下校の時間帯に通学路で子供たちを見守る「子供の見守り活動」
- 通学路や公園等を点検し、犯罪が起こりやすい場所等を記載した「地域安全マップの作成」
- ランニングをしながら、挨拶や声かけ、地域のパトロールを行う「ひょうごふれあいランニングパトロール」などがある。

### 【ご近所の防犯運動に参加しよう】

「ご近所の防犯運動」とは、安全で安心な地域社会づくりのために、地域ぐるみで自主防犯活動に取り組もうという運動である。

自主防犯活動には、ご家庭でできる活動や地域で協力してできる活動がある。

犯罪の起きにくい社会づくりには、このような自主防犯活動が不可欠となる。

「自分も地域の安全のために何かしたいけど、何から始めればいいのかかわからない」という人は、日常生活の中で「できるときに、できること」から始めてみては。

現在、自主防犯活動に参加している人はもちろん、これから自主防犯活動に参加したいと考えている人も、「気楽に」「気軽に」「無理をせず」行おう。